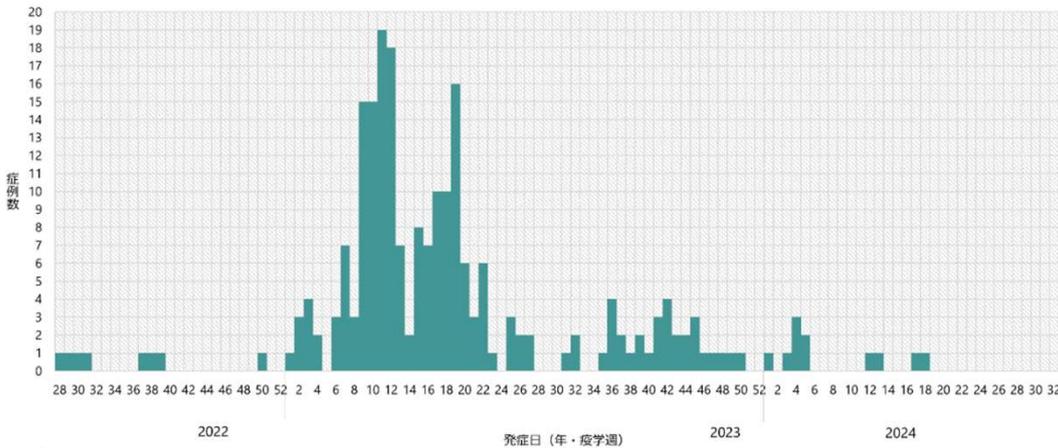


エムポックスについて

◎エムポックスとは？

「エムポックスウイルス」による感染症で、ヒトと動物が感染する病気です。エムポックスウイルスはクレードⅠとクレードⅡの2系統に分類され、今回の感染拡大はクレードⅠが影響していると考えられています。クレードⅠは、2022年に始まったエムポックスの世界的な流行の原因になったクレードⅡよりも重症度や死亡率が高いことが知られています。

2024年に入り、コンゴ民主共和国とその周辺国では、14,000件以上の感染例と551人の死亡者が報告されており、2024年8月14日に、WHOによる国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態宣言が発出されました。



国内では、2022年7月に国内1例目の患者が確認され、2023年以降も散発的な患者の発生が報告されています。2024年9月6日の時点では248例の症例が確認されています。

参考：厚生労働省 エムポックスについて
国内の発生状況

◎症状は？

- 発熱、倦怠感、リンパ節の腫れ、頭痛、筋肉痛など症状が0～5日程度持続し、発熱1～3日後に発疹が出現します。
- 発疹は顔や四肢、口の中、性器、目にも現れることがあります。徐々に水ぶくれ状になり、最終的にはカサブタとなって剥がれ落ちます。
- 多くの場合は2～4週間ほど症状が続いた後自然回復しますが、小児、妊婦、免疫不全者などで重症化することがあります。致死率は数%～10%と報告されています。
- 潜伏期間は、通常6～13日（最大5～21日）とされています。

◎感染経路は？

- 動物からヒトへの感染：
感染動物（アフリカに生息するリスなどのげっ歯類をはじめ、サルやウサギなどウイルスを保有する動物）に咬まれること、または感染動物の血液・体液・皮膚病変との接触
- ヒトからヒトへの感染：
感染している人の発疹、カサブタ、体液に触れること、性的接触（口の中、肛門、性器との接触を含む）、近距離での対面で飛沫にさらされること、感染している人の使用した寝具等との接触

◎治療・予防方法は？

- 国内では、利用可能な薬事承認された治療薬はなく、症状に応じた対症療法が行われます。
- 天然痘ワクチンによって約85%の発症予防効果がありますが、一般には流通していません。
- 感染者や感染が疑われる人との飛沫・体液等の接触を避けましょう。
- 流行地でエムポックスウイルスを有する可能性のある動物との接触を避けましょう。また、野生動物の狩猟肉や、加熱が十分でない動物の肉を食べることも避けましょう。
- 石けんを使った流水による手洗いや、アルコールベースの消毒剤を使用した手指衛生が推奨されています。